

# ゼロカーボン社会づくり

富士見町の「富士見まちづくりラボ」は、ゼロカーボン社会の実現に向けた全10回の連続講座を開講した。初回の26日は町商工会館で開き、ラボのメンバーは、地域に調和した再生可能エネルギーの導入や住宅の省エネ改修など、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減につながる取り組みを解説。地域内で資金が回るようにこれらを進め、住民や業者、地域が豊かに元気になる地域内経済循環によるゼロカーボン社会づくりを強調した。

(鮎沢健吾)

同団体は町内のNPO法人こともの未来をかんがえる会や合同会社ぎさし、町商工会の有志らで構成。ゼロカーボ

## 「富士見まちづくりラボ」連続講座

# 行動と実践へ学びの場

ン(脱炭素)社会の実現には行政、企業、住民との協働が

昨年4月から町内の太陽光発電施設の状況について調査

欠かせないとして、行動と実践につながるための学びの場を設けた。初回は町内外の約30人が参加した。



ゼロカーボン社会の実現に向けた講座で話を聴く参加者たち。講座は来年度にかけて計10回開く＝26日、富士見町商工会館

してきた。メンバーは、現在稼働する177件の大半は県外事業者で「売電収入の94%が町外に流出している」と指摘。地域で資金、仕事、エネルギーが循環する構造に転換する必要性を説いた。土地利用の観点も踏まえ、再生エネの促進地域と規制地域の「ゾーニング(区分け)が急務」とも述べた。

ラボのメンバーで、前環境省脱炭素化イノベーション研究調査室長の中島恵理さん「同町は、地元業者による断熱リフォームで、夏は涼しく冬は暖かい環境で住民が健康的に暮らすことを一例として挙げ、「ゼロカーボンは我慢ではなく、社会を豊かにする形で実践できる」と強調。企業経営にも脱炭素とSDGsの視点や取り組みが欠かせなくなっていると、これらに強みを持つ企業は今後、人材確保の面でも優位になると見通した。